

TOKYO スポーツレガシービジョン 主なポイント

本ビジョンは、東京 2020 大会の成果を今後どうスポーツの振興に活かし、都市の中で根付かせていくか、その姿を示すためとりまとめたもの。大会で得た成果をスポーツフィールド東京の実現につなげていく。

1 都立スポーツ施設の戦略的活用(P3-14)

● 大会を契機にバージョンアップしたスポーツ施設を活用し、都民の皆様に届ける価値を最大化

- **18 施設のネットワークでポテンシャルを最大限発揮**
 - ・発信力の強化（一体的なプロモーションなど）
 - ・ニーズ対応力の強化（様々な規模の大会の開催など）
 - ・一体的取組によるスポーツ振興（共通コンセプトによるイベントの開催など）
- **各施設を最大限活用するための 3 つの取組**
 - ・スポーツでの更なる活用
 - ・多様な活用による新たな体験の提供
 - ・周辺施設や地域との連携
- **各施設の特性を活かし、多様な活用を推進**
 - ・多様なスポーツ体験、ユニークベニュー、エンターテインメントなど



東京アクアティクスセンター



バリアフリー化の推進（東京体育館）

◆ 新規恒久施設では数多くの大会等を予定（P13-14）

◆ 有明アーバンスポーツパーク（仮称）（P6）

大会のレガシーを活かし、都市型スポーツの場を整備

スケートボード、スポーツクライミング（ボルダリング）、
3x3 バスケットボール



有明アーバンスポーツパーク（仮称）

2 国際スポーツ大会の誘致・開催(P15-16)

● 様々な国際スポーツ大会開催によるスポーツの賑わいを都市の活力へつなげる。

- **都立スポーツ施設の戦略的な活用**により、規模の大小・多様な競技種目に対応する。
- **国内競技団体の取組もサポート。**

パラスポーツについては、パラリンピック競技に限らず支援対象拡充

- **ハイレベルな競技を観戦**し子供や都民がスポーツの力に触れる場も提供

◆ 直近の国際大会の例

WMH マスターズホッケーワールドカップ 2022 東京 2022.10（大井ホッケー競技場等）

柔道グランドスラム東京大会 2022.12（東京体育館）

2023 年カヌー・アジア選手権 2023.10（海の森水上競技場、カヌー・スラロームセンター）



3 スポーツの場を東京の至る所に拡大(P17-18)

● 都民のスポーツ実施率は 39.2%（2007 年）→ **68.9%（2021 年）**と大きく向上

● 機を逃さず、スポーツへの関心を、都民の「する・みる・支える」につなげる。

- **スポーツの魅力拡大**：アーバンスポーツ等が体験できるイベントやスポーツ月間等のキャンペーン
- 企業の参画促進や区市町村の取組への支援など、**企業や地域との連携促進**
- **スポーツとの新たな接点を創出**

オフィス街等でのプロモーション、DX も活用したイベント、
地域と一体となった自転車のライドイベント・大会など



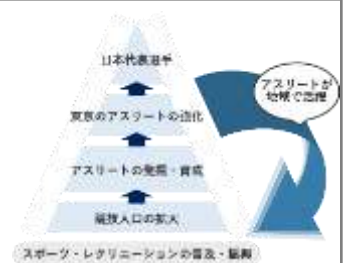
4 パラスポーツの振興(P19-22)

- 大会で脚光を浴びたパラスポーツ。障害の有無に関わらず共にスポーツを楽しみ、交流する取組を推進し、今後も**共生社会の実現**に貢献していく。
- 幅広い**パラスポーツの普及**のため、ボッチャ等を通じた交流イベント等の機会を充実していく。
- 大会を機にパラスポーツに興味を持った障害のある人に、**スポーツを始めるきっかけ**として身近な地域での体験機会を提供。健康・楽しみの面からも参加促進
- 施設のバリアフリー情報の発信、地域でのスポーツ・医療・教育部門の協働の後押しなど、場を確保し「**だれでも、どこでも、いつまでも**」を実現
- ◆ **東京都パラスポーツトレーニングセンター（仮称）**：2022 年度末に開業予定。（P6）
味の素スタジアム内の室内施設を改修
パラスポーツの競技力向上の拠点、障害の有無に関わらずパラスポーツに親しむ場を創出



5 東京のアスリートの活躍(P23-24)

- 都が発掘・育成・強化した選手が大会に多数出場。メダリストも誕生
東京 2020 大会メダリスト：オリンピック 9 名、パラリンピック 16 名
- 今後は競技力の向上とともに、**アスリートがその経験をもとに地域で活躍**し、スポーツの裾野を拡大する循環を創り出していく。
- 東京育ちのアスリートが、地域に応援され活躍することで、競技人口の拡大やスポーツの普及・振興につなげる。



6 ボランティア文化の定着(P25-26)

- 大会では応募者約 24 万人、1 年延期後も約 8.3 万人が参加（ロンドン・リオを上回る）
- 大多数が活動継続に意欲（シティキャストの 96%）
- 気運・経験と人材を将来に受け継ぎ、ボランティア文化の定着を図る。
- 「**東京ボランティアレガシーネットワーク**」や「**TOKYO 障スポ&サポート**」により、多彩な情報・活動フィールドを提供
- **スポーツ分野**の活動機会（大会周年行事や東京レガシーハーフマラソン）
- 学校で実施してきた**ボランティアマインド育成**の多彩な取組を継承
- 講演・ウェブ等により**経験やノウハウを発信・継承**



7 未来へのメッセージ(P27-28)

- 大会を彩ったメダルや表彰台、ムラール等に込められた**重要なメッセージをアーカイブ資産とともに未来に継承**
- 地域や学校、スポーツイベント等で競技用備品に触れる場を提供。**スポーツの振興につなげる。**
- 大会の記念品を展示や教育の場で活用し、**大会の精神を継承**
- ◆ **大会 1 周年記念行事**：2022 年 7 月～10 月
多彩なスポーツイベント等の実施により、大会の感動を思い起すとともにスポーツの実施に結び付ける。
- ◆ **東京レガシーハーフマラソン**：毎年 10 月第三日曜に開催
パラリンピックマラソンコースを活用。障害の有無に関わらず誰もが楽しんで走る場を創出
2022 年の第 1 回大会は IOC と協力し、「セレブレーションマラソン」に位置付けて実施

